



2026～27年度



週報

糸魚川



2026.9.17
第3093例会
No.11

- ◆ 会 長 平野嘉生 ◆ クラブ会報雑誌 鍋島誠
- ◆ 例 会 場 ヒスイ王国館 糸魚川市大町1-7-11 TEL.025-553-1210
- ◆ 例 会 日 毎週木曜日 12:30～13:30
- ◆ 創 立 1960年9月10日 ◆ 承 認 1960年10月12日
- ◆ 事 務 局 新潟県糸魚川市寺町 糸魚川商工会議所内 TEL.025-552-1225
- ◆ 糸魚川RC HP <https://www.itoigawa-rc.jp/>
- ◆ 第2560地区HP <https://www.rid2560niigata.jp/>

歓迎 富山ガバナー公式訪問

「ロータリーで人生を
より充実させよう」

富山 洋ガバナー

(雪国魚沼RC)

1961年8月24日生

富山電気株式会社 代表取締役

Yukiguni Alliance株式会社代表取締役

〈ロータリー歴〉

2002年7月1日 雪国魚沼RC入会

2006-07年 クラブ幹事

2008-09年 クラブ会長

2022-23年 第6分区分ガバナー補佐

※「クラブ現況報告書」詳細記載



次回例会プログラム

◇第7分区分IM記念親睦ゴルフ

日 時 9月26日(土)

会 場 松ヶ峯カントリー倶楽部

参加者 平野君、歌川君、小田島君、松澤君

◇国際奉仕プログラムセミナー

日 時 9月26日(土)

会 場 ホテルオークラ新潟

参加者 新保君

◇第33回第7分区分IM

日 時 10月3日(土)

会 場 デュオ・セレッソ

◇2026-27年度 地区大会開催案内

会 場 NASPAニューオータニ

日 時 1日目 11月7日(土)

登録受付 12:30～13:30

地区指導者育成セミナー 13:30～17:00

ロータリー親睦交流会 17:30～19:30

2日目 11月8日(日)

登録受付 8:30～9:30

本会議 9:30～15:20

ロータリー親睦交流会 15:50～18:30

※名札、ネクタイ、地区バッジ着用

本日のプログラム

- ・ 点 鐘
- ・ 四つのテスト
- ・ 会 歌 奉仕の理想
- ・ 会長挨拶
- ・ 幹事報告(書面)
- ・ 委員会報告
- ・ ニコニコ箱担当委員
- ・ その他委員会
- ・ 富山ガバナー講話
- ・ 点 鐘

本日のお客様

第2560地区ガバナー 富山 洋 君

第7分区分ガバナー補佐 小川 幸喜 君

ニコニコ箱 9月10日

歌川多喜司君 小関様、本日はよろしくお願ひいたします。

小田島修平君 農林振興部普及課小関課長代理をお迎えして、卓話よろしくお願ひします。

◆中央RCコーナー

9月25日(金) 休会日

9月10日の卓話 *****

「新潟米の品種について」

糸魚川地域振興局

農林振興部 普及課

課長代理 小関 幹夫 様



私は地域振興局の農林振興部で、農業技術や農業経営に関する指導、新規就農者への支援、農業法人化の支援などを担当しております。

まず、糸魚川の農業を取り巻く状況についてです。

現在、糸魚川市では農地面積、農家数ともに減少傾向にあります。一方で、農家一戸あたりの経営面積は増加しています。農家が減少する中で、地域の農地を維持するため、担い手へ農地を集めていく動きが進んでいるためです。

実際に、担い手への農地の集積率は、令和2年度の35.5%から令和6年度には41.6%まで上昇しています。

農地を守るためには、意欲のある担い手に農地を集めていくことが重要ですが、経営面積が大きくなるほど、人手や機械の負担も大きくなります。そのため、少ない人数でも効率よく作業できる仕組みが必要になっています。

また、近年大きな課題となっているのが、夏の高温による米の品質への影響です。

特にコシヒカリは高温に弱く、登熟期の気温が高くなると、米粒が白く濁る「白未熟粒」が発生しやすくなります。近年は夏の高温が続き、米の品質が年によって大きく変動しています。

こうした状況に対応するため、新潟県では高温に強い新品種の開発・普及を進めています。

その一つが、今年から一般栽培が始まった「新潟135号」、通称「なつひめ」です。なつひめは高温に強く、コシヒカリ並みの食味を持つことが特徴です。また、コシヒカリより早く収穫できるため、農作業の時期を分散できるというメリットもあります。

さらに、今後は「新潟124号」など、高温に強い品種も普及していく予定です。早生、中生、晩生など収穫時期の異なる品種を組み合わせることで、

農作業の集中を避けることにもつながります。

そして、農業の現場では「スマート農業」と呼ばれる新しい技術も広がっています。

ドローンによる農薬や肥料の散布、GPSを利用したトラクターの自動操舵、衛星画像による生育状況の把握、自動給水栓による水管理など、さまざまな技術が導入されています。

こうした技術を活用することで、少ない人数でより広い面積を管理することが可能になります。また、これまで経験や勘に頼っていた作業をデータで管理することで、農業経験の少ない人でも作業しやすくなるというメリットがあります。

さらに、省力化技術として「乾田直播」も注目されています。これは、乾いた田んぼに直接種をまく方法で、苗を育てる作業や田植え作業を省くことができます。糸魚川市内でも導入する農家が出てきています。

農家の減少や高齢化、高温による品質低下など、糸魚川の農業を取り巻く環境は決して簡単なものではありません。

しかし、新しい品種やスマート農業、省力化技術、農地の基盤整備などを組み合わせることで、少ない人数でも農地を守り、農業を続けていく可能性は広がっています。

これからも糸魚川の農業が続いていくためには、農業を担う人を育てることはもちろん、地域全体で農業を支えていくことも大切だと思います。

私たちも農業技術や経営面での支援を通じて、糸魚川の農業を少しでも支えていきたいと考えております。

本日は、糸魚川の農業の現状と、これからの新品种や新しい技術についてご紹介させていただきました。

これから「なつひめ」をはじめとした新しい品種のお米を召し上がる機会がありましたら、ぜひ味わっていただければと思います。

◆個人寄付 9月10日 (2名 6,000円)

氏 名	スマイル	R財団	米山財団
歌川多喜司 君	2,000	500	500
小田島修平 君	1,000	1,000	1,000
合 計	3,000	1,500	1,500